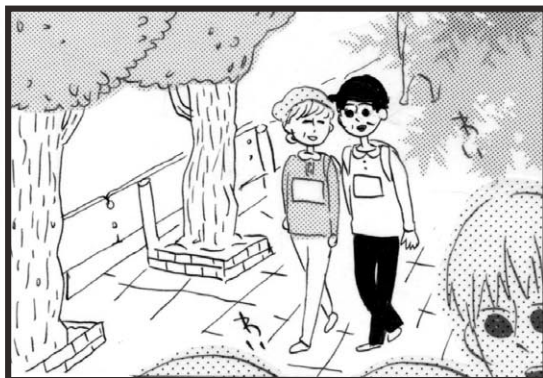


蒲郡マンガ歳時記

健康づくりの秋



企画広報課 ☎66・1145

読む



水族館



学芸員 小林龍二

竹島水族館
☎68・2059

「蒲郡にもいるのです」

8月、私は後輩の三田と竹島周辺の海に潜ってみました。普段から地元でいろいろな採集活動をしています。蒲郡の海に潜るのは何十年か振りです。

潜ってみると竹島周辺は「アマモ」という海藻が信じられないほど生えており、驚きました。アマモは海を浄化する機能が

あり、生き物の子どもを育てる海のゆりかごとも言われています。場所によってはまるでジャングルのように密集して生えているところもありました。その中をエイがヒラヒラと優雅に泳いで行ったり、ワタリガニがハサミを振り回してズカズカと歩いていたりして、サンゴの海に潜るダイビングとは違った感動

がありました。そんな中、アマモにしっぽを巻きつけて静かに揺れている何かを発見しました。近づいてみると、なんとタツノオトシゴです。サンゴタツという種類のタツノオトシゴで、大きさは5センチほど。私も三田もビックリしました。タツノオトシゴはあの魚らしからぬ体型や「オスが子どもを産む」という変わった特徴を持っていて、水族館の人気者の一つです。

暖かい熱帯の海にすんでいると思われがちですが、実は目の前の海にも住んでいたのです。これには私もビックリでした。このかわいくて不思議な魚は蒲郡にも住んでいるのです。調べると、50年ほど前は竹島橋の下では普通に見られたようです。今回潜った竹島周辺の海はやはりちよつと汚く、水中ではにがりて手の先が見えないところもありました。しかしそんな蒲郡の海にもタツノオトシゴが住んでいることをぜひ、皆さんに知っておいてもらいたいと思います。